

佐貝貞夫（豊里） みなさん今日は。今日の出席者はいつもより少ないのですが、交流研を始めたいと思います。進行は、逢沢さんの都合により操さんをお願いしたいと思います。

★ 売れても売れなくても

渡邊 操（春日山） それでは進行係をやらせて頂きます。豊里ファームとか、いろいろやって気付いたことを出して下さい。

まず私から気付いたこと出してみましようか。毎朝の老蘇の出発研では、村の連絡研に出た人から村の動きや豊里ファームのこととか聞かせて貰うのですが、老蘇さんは聞かせて貰うだけで元気が出るなあと思います。豊里ファームで一番強く感じたことは、全部実顕地生産物だなあとということ、売れても売れなくても、生産物としての真価は変わらないということです。人もみな実顕地生産物だと思ひ嬉しくなって、皆さんからもそれを聞きたくて参加しました。どうぞ何からでも出して下さい。

逢沢利晃（春日山） 先日、春日山の実顕地作りメンバーがプロデュースしてくれて九州旅行に行ってきた。その後同じ実顕地作り研から交流へのご招待というのが来たのです。その中の4人は九州旅行に招待されたメンバーで、あとの1人とあわせて5人が今、雄物川実顕地へ交流に行っています。若い世代の実顕地作りメンバーが招待してくれたことが大きいです。裕子さんは娘さんのこともあり、動くことに積極的でないと思っていたのですが、120%行きます、と言い切って出発して行きました。娘さんも蔬菜で安定してやっているようで、その事も素晴らしいと思いました。村ネットに載っていたのですが、東北の実顕地メンバーが交流に行った人達と自動解任の研鑽をやったそうです。若い世代の実顕地作り研で研鑽したことを老蘇世代の人達が受け、喜んでいる動きは嬉しいと思います。住生活は、交流に2人、研鑽学校に2人送り出して、自分は一生懸命仕事をしています。

操 次へどうぞバトンタッチして下さい。テーマもバトンタッチとありましたね。どなたからでもどうぞ。

★ 実顕地作りの流れの中で

佐貝のぶ（豊里） 5月22日からの老蘇高研は遙か昔のように思えてきています。ひとりひとりが持ち寄ったテーマを受けて自分にもそんな所があるなあとか、研鑽会の醍醐味を感じたのと、高研は実顕地作りの大きな流れの中で用意して貰ったのだなあと感じました。九州旅行の話、日曜市、豊里ファームが立ち上げられて新しい感覚での村作りとか、若い人たちが動いている姿に感動したり、高研に入らせてもらって良かったです。遠慮気兼ね、私にはそんなものはないつもりでしたが、たとえば高野尾クリニックに行くのに、運動のためにと歩いていたが、実は足の負担で痛さを

我慢しているところがあるのに気付きます。高研の後には、声をかけたことのない人に声をかけて乗せて貰ったりします。

鈴木里子（豊里） 私は何十年ぶりで老蘇高研に行かせて貰いました。日々漫然と暮らしている自分があるのですが、何もかも用意されていてその中で楽しませて貰いました。のぶさんが高研に行ったから豆収穫が手遅れで、すっかり黄色くなったとか、出発研で出ていました。

奥谷紀美子（一志） 一志では6月から養鶏法を受け入れる事で、その研鑽会をしています。受け入れる事が目的でなく、受け入れるまでにどれだけ仲良しが深まるか、今研鑽の真っ最中です。豊里ファームのこともボードに色々報告され、実顕地一つの動きの中かでやらせて貰っているというのが皆の中に入ってゆき、嬉しいなあと思います。高研では佐貝さんが炭鉱道に入る時に「死生観」を研鑽したとおっしゃって生き方として、どんな時でも研鑽をしたことが、ずっと今に続いているんだなあと思いました。実顕地を存続させてゆく大もとが研鑽会にあると強く思います。

高橋タカ（美里） 高研に行きましたが、自分から人に近づいて行く、それが私のテーマだと思いました。故野尻さんのお通夜での生前の話で、どんな人でも受け入れるその姿勢に心打たれました。日和佐に中等部が出来てその時の子供たちが、未だに訪ねて来るその凄さに、それが全部に繋がっているのだと、またそれが高研の中味にも繋がっているのだなあと思いました。野尻さんを目指す人としていきたいと思いました。

筒井和枝（春日山） 私も高研に参加させて貰いました。苺狩、さくらんぼ狩、交流会など受け入れに当って逢沢さんが描き、交渉して下さいったのだと思い、感動しました。春日山に住みながら、あらためて春日山を知ったような自分がありました。遠慮気兼ねの研鑽の時、自分は深くそのことについて考えなくてはと覚悟したのですが、そのとき「遠慮気兼ねがないと思ったら、そうしたら良いだけ、てのひらを返すような簡単な事や・・・」え？何？・・・とペテンにかけられた氣になりました。何十年と研鑽を重ねた男性陣に圧倒されました。出発してからじわじわとその事に気付き、思いをくっつける自分の姿に気付いています。

★ 野尻さんと『戦友』

逢沢 ここに田中統子さんからいただいた手紙があるのですが「今から田中さんのお風呂いれ

がありますので・・・」と言って行かれたきり、まだ戻って来ませんが、手紙の他に『戦友』という歌の歌詞が入っているのです。この歌と野尻さんのことで何か言いたいことがあるのかも知れませんが、私としては、どう受け止めていいかわかりませんが。

新島里子（豊里） 野尻さんは生前、よくその『戦友』を歌っておられたそうです。軍隊に行かれた野尻さんを偲んでお通夜でもみんなでそれを歌ったそうです。統子さんは、この歌は反戦歌とまでは言えないにしても厭戦歌ですね、と言っていました。

操 私達夫婦は体調がすぐれず、高研に行けず残念でした。私がロビーにいと統子さんが飛んで来て「老蘇の生き方が解りました」そして「いつもニコニコしていること」と言いました。統子さんが、嬉しそうに高研に入っていたのが心に残りました。

★ 受ける喜びと与える喜びと

佐貝 私も聞く方はまだ聞こえるのですが、思い出そうとしてもなかなか思い出せないことが多くなりました。何が心に残るかという、心に響いたことが残ります。例えば毎年春日山を会場として老蘇高研をやらせて貰いますが、春日山でいろいろ用意してくれたことが心に残り、それが忘れる事のない一つです。他から受けることの喜びと自分がどれだけ他に与える喜びが出来るかです。それは毎日自分の心を見つめて気付いたことを皆の場に出す研鑽の場を設け、皆様とともに研鑽し実践する事だと思います。

操 他に意見のある方どうぞ！

和枝 私は春日山の日曜市では、お握りを握って売ることに関わらせて貰っていますが、さて豊里ファームでは？ 先日若い人が山椒の葉っぱ、木の芽を売らないかと言って来て豊里ファームに3回ほど出したところ売れました。昨日は山椒の実を炊いたんを出したのですが、昔おばあさんが炊いてくれたとか言って、意外にファンが多いようです。今日の研鑽でこの山椒も実顕地生産物だと思いました。

佐貝 そろそろ時間となりました。

私自身のことですが、今年の夏は別海、夕張、穂別実顕地などに交流に行くことを予定していますが、遠慮気兼ねなしに行くのも実践の一つですね。今日の交流研はこれで終りたいと思います。

思惑はお構ひなしに小判草	泉	きぬ
ひとすすり昔をたどり心太	高階ミヤ子	
脱北の嫌疑かけらる夏つばめ	真早流直義	
朝焼や長崎港に大型船	筒井 一枝	
船頭も俳句を披露船遊び	桃 子	
五十肩同士のランチ氷水	元橋 絃子	
膝厚く坐りなほして豆ごはん	新島 里子	